

安全衛生・兵庫

『ご安全に!』



◆『ご安全に!』。皆さんご存じですか? 十数年前の安全大会に、ある会社の安全衛生担当者講師に招き、講演をいただいた際の、最初の挨拶の言葉です。

◆この会社では、「おはようございます」という代わりに『ご安全に!』、会社内で人とすれ違うときも『ご安全に!』、会社共通の『挨拶の言葉』であり、安全を喚起するアイデアの一つとして効果を期待しています。

◆この『ご安全に!』を調べてみると、昭和28年、日本で初めて住友金属工業の現場での安全意識の高揚、注意喚起のために、全事業所で挨拶運動として展開したようです。

◆その語源は、昔、ドイツでは炭鉱事故が多発して、作業員達は、地下深くへと作業に着く前に必ず生きて帰って来いよ!という願いを込めて『ご無事で!』と、親指を立て力強く握りこぶしを前に出し挨拶を交して地底へと入って行ったそうです。

この『ご無事で!』が、当時、同じように炭鉱事故で悩まされていた日本でも、多少のアレンジがなされて、採用されたことが語源とされています。

◆『安全』とは、「物事が損傷したり、危害を受けたりするおそれがないこと。」(広辞苑より)「人とその共同体への損傷、ならびに人、組織、公共



の所有物に損害がないと客観的に判断されること。」(「安全・安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会」報告書より)、その漢字から意味合いは、「全て」が「安らか」であることが読み取れます。

◆『ご安全に!』は、何か気恥ずかしく、意味合いは深く理解できなくても、へんな挨拶言葉だなと思っても、この言葉に託された想いは、安全って何だ?と、考えるきっかけになることが大事なのかもしれません。

◆これから冬期を迎え、積雪や凍結等作業環境や交通事情が厳しくなります。危険予知活動、一歩先を見据えた確認と行動により、災害と交通事故を未然に防止していきましょう。
今日も一日、**『ご安全に!』** (次長)

冬道の運転は「ご注意」!

■冬期を迎え、雪道・凍結路を走行することが多くなるこれからの時期。最も注意しなくてはいけないのがスリップ事故です。トンネルの出入口や橋の上など、あらかじめ凍結しやすい場所を知っておくことが大切で、その場所では、その手前から必ず減速することが交通事故防止につながります。

■また、交差点の手前のように頻繁にブレーキを踏む場所は路面が磨かれミラーバーンのようになっていることがあります。減速や前車の車間距離を取ることがもちろん、数台先の車のブレーキランプや信号の色に注意し、すぐに停止できるようにしておくことがポイントです。

■昼間、雨などで濡れていた路面が日没頃に凍結路に変わることがあります。「昼に通過したときは凍結していなかったから大丈夫」という油断も禁物です。

こんな場所が凍結しやすい



師走の安全管理・健康管理

■月日の経つのは早いものでいつの間にか12月になってしまいました。旧暦12月を師走と呼び、現在では師走は、新暦12月の別名としても用いられ、その由来は僧侶(師は、僧侶の意)が仏事で走り回る忙しさ(平安後期編『色葉字類抄』)からという平安期からの説、また、言語学的な推測として「年果てる」や「し果つ」等から「しわす」に変化したなどという説もあるそうです。

■年の瀬の忙しさが落ち着きを失わさせる、このような時には大きな事故や災害が発生しやすいと言われています。

■職員総参加で、「目配り」、「心配り」、「心配り」を、「心配り」をして、安全を確保しながら、今年も残り1ヶ月を無災害で締めくくりましょう。



発行 兵庫森林管理署 安全衛生委員会